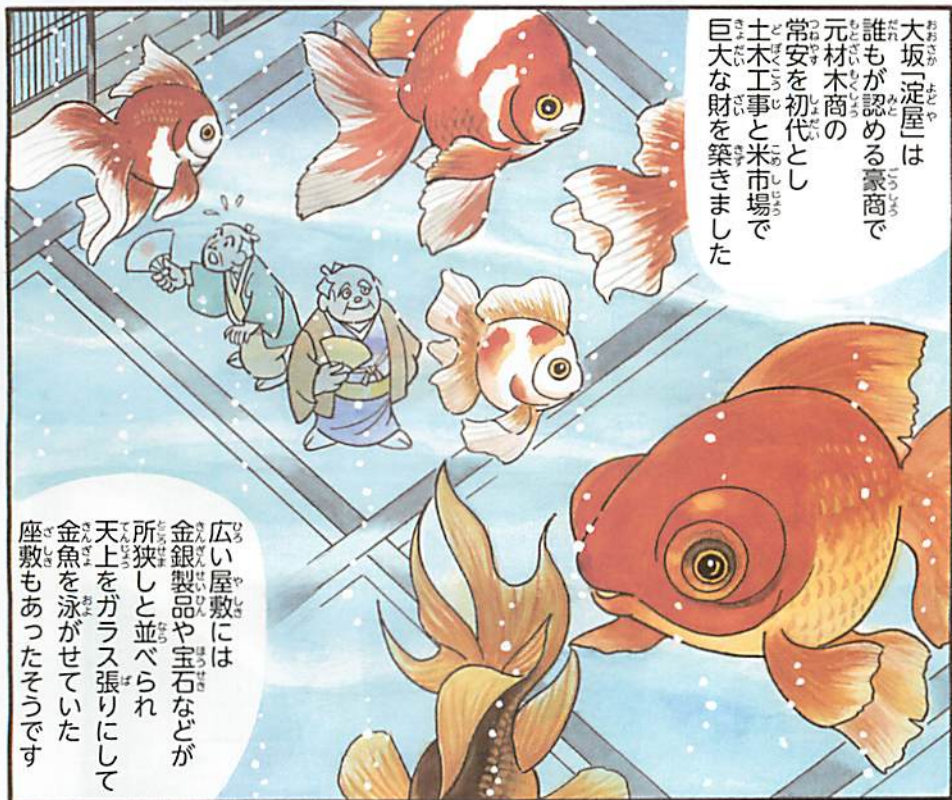


くらよしよどやものがたり

# 倉吉淀屋物語

大坂(おおさか)二(に)淀屋(いづなや)は  
誰(たれ)もが認(みと)める豪商(ごうしょう)で  
元材(もとざい)木商(きしょう)の  
常安(じょうあん)を初代(しよだい)とし  
土木(とくぼく)工事(こうじ)と米市(こめいち)場で  
巨大(きょたい)な財(ざい)を築(た)きました



広い(ひろい)屋敷(やしき)には  
金銀(きんぎん)製(せい)品(ひん)や宝(たから)石(いし)などが  
所狭(ところせま)しと並(なら)べられ  
天上(てんじやう)をガラス張(はり)りにして  
金魚(きんぎょ)を泳(およ)がせていた  
座敷(ざしき)もあつたそつです



淀屋(いづなや)は  
すすきや礬(あし)の砂地(すなぢ)だつた  
大坂(おおさか)の中(なか)之(の)島(しま)を開拓(かいたく)して  
そこ(そこ)に大坂(おおさか)屋敷(やしき)を作り  
日本(にっぽん)中(なか)の米(こめ)や品物(ひんぶつ)が取引(とりひき)  
される(される)よつに整備(せいび)しました

これが  
大坂(おおさか)の商(しょう)業(ぎやう)の発(はつ)展(てん)に  
大(おほ)きく貢(こう)献(けん)した(した)ので(ので)す

この時淀屋が架けた橋が「淀屋橋」で現在の淀屋橋の地名の由来となつています



イラストは現在の淀屋橋

二代目 言当はこれまでの現物取引だけでなく

現在における先物取引を世界に先駆けて行いました



四代目 重当のころにはピークを迎え

なんと二時間で八十万両の商いをしたといわれています



淀屋殿

この通りだ  
二千両  
お貸し願いたい



このように  
西国の  
ほとんどの大名が  
淀屋に頭を下げて  
借金していたのです

109 109...







父重当の遺言どおり  
五代目 広当は  
あちこちで  
金をばらまぎ  
遊びまくりました



その結果  
宝永二年（一七〇五年）  
せいたくの罪で  
淀屋はお取りつぎし  
当主の広当は  
大坂追放の身と  
なりました

また 没収された  
お金  
今のお金で  
百兆円以上の  
のぼりました

そのころ……



そのお店の看板には  
なぜか屋号が  
入っていません



ここ 鳥取倉吉に  
奇妙なお店が  
営業していました



あつ  
旦那さま！



松吉や





ありがとうございます  
ございました



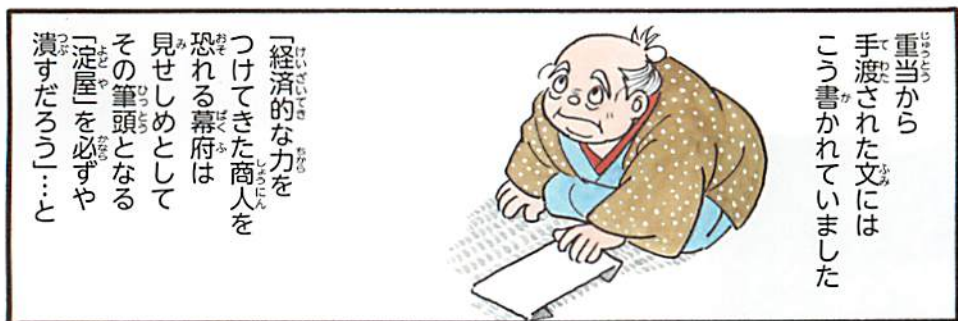
重当さまの  
言いつけた  
屋号のない看板に

そろそろ  
屋号を明記しても  
良い時期ではと  
考えております



重当さま 大坂「淀屋」は  
無くなりました

でも  
重当さまの計画通り  
倉吉「淀屋」は  
ごひいき様もでき  
軌道に乗ってきました



重当から  
手渡された文には  
こう書かれていました

「経済的な力を  
つけてきた商人を  
恐れる幕府は  
見せしめとして  
その筆頭となる  
「淀屋」を必ずや  
潰すだろう」と



さらに  
「淀屋」再建の  
道筋も……

\*まず幕府の目の  
届かない

牧田仁右衛門の故郷で  
密かに商いを続け  
大坂「淀屋」再建の  
準備をすること。

\*その間「淀屋」の看板は  
掲げぬこと。

\*お百姓さんのために  
鉄刃の丈夫な  
縮抜き千刃を造ること。



その後  
大坂「淀屋」の  
再興は  
倉吉「淀屋」  
五代目の四男が  
淀屋清兵衛を  
名乗り  
悲願を果たしました



以後「両家は  
協力して  
栄えました

安政六年  
(一八五九年)

大坂「淀屋」五代  
倉吉「淀屋」八代  
のとき

両家は「突如閉鎖」し  
資金を朝廷に献上して  
この世から姿を消しました

徳川幕府が滅ぶ  
わずか八年前のこと



そして現在「倉吉」には  
倉吉「淀屋」菩提寺の  
大蓮寺と――

倉吉「淀屋」が  
倉吉市指定文化財  
「旧牧田家住宅」として  
保存されていて

見学もでき  
当時の暮らしを  
体感することが  
できます



※倉吉淀屋の記録は、まだ多くの謎につつまれています。この物語は、倉吉に伝わる一説をもとに作成いたしました。

発行 倉吉市 企画振興部 観光交流課

〒682-8611 鳥取県倉吉市葵町722番地 電話0858-22-8158

参考文献 新山通江 (1980) 『鴻鶴の系譜』 淀屋顕彰会

漫画 岩田廉太郎 / ラ・コミック